

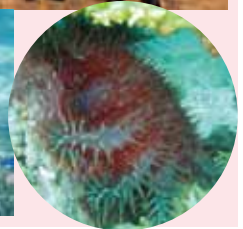
にけーしよん

2/3 サンゴ保護の活動により 表彰されました!

松山市の全日空ホテルで、「第8回三浦保環境賞」の表彰式が開催され、愛南町の宇和海海中資源保護対策協議会(山下常臣会長)が実施しているサンゴ保護の活動が特別賞に選ばれました。同協議会では、豊かな漁場環境の形成や観光産業にとっても貴重なサンゴを守るため、地元ダイバーの協力を得て、サンゴを食い荒らすオニヒトデやシロレイシガイダマシ等を駆除しています。



前列右端が山下会長



2/4 正しい食生活を学ぼう!

御荘文化センターで「高校生の食育教室」が行われ、卒業後親元から離れてひとり暮らしを始める高校3年生13名が参加し、正しい食生活と自らの健康づくりについて理解を深めました。

調理実習では、町食生活改善推進協議会の指導により「鶏ささみのホイル焼き」「ブロッコリーとえびのガーリック蒸し」などに挑戦。参加した高校生たちは、「難しかったけど、うまく作ることができた」と自信を見せていました。

作った料理をみんなで試食した後、だしのとり方や栄養のバランス、骨粗しょう症や適正体重、コンビニ食の上手な選び方など食生活と健康について学びました。



本日! ^{うみびより}海日和!! 「秘密の花園」

3月5日はサンゴの日です。今月は愛南町のやや深い海で見られる色鮮やかなサンゴを紹介します。

ジュウジキサンゴの多い瀬の浜で潜ると、水深15mくらいから太陽の光があまりとどかなくなり、深い青色だけの世界になってしまいます。そこで、持っている水中ライトをつけると、ジュウジキサンゴ本来の色が鮮やかに浮かび上がってきます。

ジュウジキサンゴは花のようにも見えますが、植物ではなく動物です。花びらのように見える触手で、小さな生き物をからめ捕り、体に不釣り合いな大きな口で食べてしまいます。この写真もちょうど食事中的のようです。美しいサンゴも、実は肉食のハンターなのです。瀬の浜の海底には、ちょっぴり怖くて美しい秘密の花園が広がっているのです。

(ジュウジキサンゴ 瀬の浜 水深25m 2010.8.1)



環境省自然公園指導員 西尾知照

愛南こみゆ

1/18 小児救急医療の現状を学ぼう!

御荘文化センターで、子育て支援グループ「こぶたんぽぽポケットとんぼ(増田和恵代表)」の主催による「あいなん小児救急医療学習会」が開催され、子育て中の母親や子育て支援 富永なおみさん 関係者など約90名が、愛南町の小児救急医療の現状について理解を深めました。



まず、消防本部から愛南町の救急医療搬送の現状、保健福祉課から小児救急医療に関するアンケートの報告があり、続いて西脇小児医療を守る会(兵庫県)代表の富永なおみさんを講師に同会の活動についての講演会が行われました。

講演では、医師増員の署名活動や小児医療についての勉強会、医師に感謝の気持ちを伝える「ありがとうメッセージ」の作成などの活動内容が紹介されました。富永さんは、活動を通じて「医療」が身近なものになり、「感謝」の気持ちが強く感じられるようになったと話されていました。

最後に、「愛南町の明日に向けて」をテーマにグループワーク(意見交換)も行われ、愛南町の地域医療を守る方策について熱心な討論が行われました。



1/17~19 伝統のひがしやま作りに挑戦!

山出地区の共同加工場で、僧都小学校の全校児童16名が参加して「ひがしやま」作りに挑戦しました。「ひがしやま」は町内各地に伝わる伝統的なお菓子で、サツマイモを原料に砂糖や添加物を一切使わない、自然な甘さが特徴です。

子ども達は、愛南グリーン・ツーリズム推進協議会の指導を受けながら、3日かけて芋洗いから皮はぎ、芋炊き、そして炊き上がった芋を干して、さらにスライスして干す工程に挑戦しました。

出来上がった「ひがしやま」は、2月25日に御荘文化センターで開催された「子ども農山漁村交流プロジェクトセミナー」の来場者にプレゼントしました。